



## 教育目標

「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」  
〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話 03-3436-3551 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-ky.ed.jp

## もう一つのワールドカップ

校長 佐藤 太

梅雨が明け、夏雲が青空に映える7月となりました。先月は、御成門中生の素晴らしい団結力を見せた運動会があり、多くの保護者・地域の皆様から応援をいただき、ありがとうございました。

また先月は、3年生にとっては、最後となる運動部活動の夏季大会が行なわれ、3年間の思いを込めてプレーをしたと思います。今週は期末テストの答案が返却されますが、しっかり復習をしてください。そして、3週間後には夏休みを迎えます。2年生は夏季学園、3年生は修学旅行の学習が行なわれていますが、一学期の振り返りをもとに、夏休みの計画をしっかり立てていく必要があります。

さて、サッカーのワールドカップがロシアで行なわれ、世界中が観戦しています。一次リーグで日本代表は、一試合目のコロンビア代表に勝ち、2試合目のセネガル代表には引き分け、決勝トーナメント進出をかけた3試合目のポーランド代表には0対1で負けました。日本代表とセネガル代表は一勝一敗一引き分けで並び、勝ち点、得失点差、総得点でも並び直接対戦でも引き分けたため、警告数のフェアプレーポイントで2点上回った日本代表が、1次リーグを突破することになりました。



しかし、3戦目のポーランド戦では、決勝トーナメント進む戦略とは言え、複雑な感情も残りました。試合終盤の負けている状況で、日本代表が得点を取り行くよりもポーランド代表を攻撃せずに味方チーム内でボールを回した戦術をしたからです。試合時間残り10分でイエローカード2枚分セネガル代表に優位に立っていた日本代表に、監督は不用意なファウルは避けるという作戦をチームに指示したと言います。世界中に中継された試合を巡って賛否両論があつて当然でしょう。「攻める姿勢を見せず残念」、「子どもたちにいい試合と言えるのか」、「決勝トーナメントに行くことが先決だ」…人それぞれに思いがあります。

私には、高度な次元に立つ戦術の善し悪しは分かりません。しかし、甘いところご指摘を受けるかもしれませんが、少なくとも選手達は3試合に全力を注ぎ込んだ積み重ねがあつて、いや、そこに至るまでの努力の継続があつて出た結果で、最後は「神のみぞ知る」ではなかったかと思います。「人事を尽くして天命を待つ」私の好きな言葉です。皆さんも、目標に向かって何事にも全力を尽くす姿勢で取り組んでいってください。

今回のワールドカップでもう一つ。それは、観戦した日本人サポーターが、試合の後、スタジアムでゴミを拾う姿が世界的に共感と呼んでいることです。白熱した試合後には、コップや包み紙などが会場に散乱することが容易に想像できます。6月19日の初戦で日本人サポーターは、日本代表がコロンビア代表に勝ち、対南米チーム初勝利に喜び湧いたことと思います。しかし、日本人サポーターは、試合後に袋を手に分たちが座っていた席を歩き回ってゴミを拾い、掃除し、開場時と同じようにして帰ったと報道されていました。この行為が世界から注目を集めているのです。私は、この行為は、人としては当たり前のことだと思いますが、ゴミを拾う日本人サポーター行為は、今回が初めてではなく、前回ブラジル大会でも報道されていたことを覚えています。

私が、今回素晴らしいと感じたのは、以前から続けてきた日本人サポーターの行為が、世界の各国サポーターに受け取られ、広がっていることです。同グループのコロンビアやセネガルのサポーターも試合後にゴミを拾い、この行為を世界中のメディアが伝えました。世界の人々がSNSやツイッターに動画や投稿をし、「いいね」の共感が何万件にも及んでいます。良いマナーが世界に発信されているのです。私達は、世界の国の人から様々のことを学びますが、同時に、私達が発信したことが世界に響いていくことも大事です。

あるセネガルのサポーターが、「ゴミを残していくためにスタジアムに来ているわけではありません。毎回の試合後にゴミを持ち帰って、私たちが礼儀正しい人々であることを世界に示せば、次にどこへ行ったとしても歓迎してもらえらるでしょうから」と、コメントをしている言葉が、私の心の中に残りました。